

れ御しんせつのはよいともく御嬉しく何事をおきても御供願ひまゐ
らせたく折から髪結ひの参り居候まゝ取り上げ候はゞすぐに参上いた
すべく候何も御返り事ばかりをさし急ぎて じ

初難祝ひの文

打ついき空ものどかになり増り候みなく様ますく御機嫌よく渡ら
せられ御めでたく存上まひらせ候さてとや明日はお嬢様御初難の御祝
ひとて私どもまで御招きにあづかり有がたく御禮申上参らせ候五人は
やし壹組御初節句のお祝ひのしるしばかりにさし上げ候御處々よりさ
ましく御さらびやかに参らせおはします御中へいとも御耻かきさま
なれと御心安さに任せての心ばかりを御納め給はらばかたじけなく庭
の桃一枝またつばみがちに候へと添へて御覽に入れ候猶御祝ひ言は明
日まゐりて申上げらるめめでたくじ

同 返 事

御文拜しりてとや娘はな初難の御祝ひとして御心入れのお祝ひ

物ならびに御庭の桃の花をさへ下しおかれかたじけなくいたいき申候
何事の式作法もわかまへ申さずあやしきさまに處々よりの賜はり物取
ならべ候中にも御許様よりは一きわ見立ちて難壇のさかえと取はや
し申候いづれ御目もじの折よくく御禮申上べく候明日は其もにて
白酒一盃参らせ度こゝろ構へに候まゝかならずく御早々と御入らせ
のはどくれくも願ひ上参らせ候 めめでたくじ

摘草に誘ふ文

きはくしうお暖に相成りこゝろもかのづと春めき申候昨日さる御方
より摘草の御土産とて嫁菜土筆など給はり候より此の頃の野邊の景し
きの思ひ遣られ候て明日は子供引き連れ天下茶屋あたりまいりたくと
存じ候まゝ御さしつかへもおはさず候はゞ御供致したく随分と御保養
にもなり申べくと存じ悉せら候序に何がし様別荘の紅梅を拜見いたし
候などもなかく楽しみ深う候はんと思しめし伺ひまゐらせ候じ

同 返 事

拜しつゝ明日は御摘草のおもよふしおはしまし候て御誘ひ下され御
 深切のはといともく有がたく御禮申上りつゝ小川の根芹岡の媛菜な
 ど歌の題にもせまほしきさまくの草をも摘みながら野邊に遊びくら
 すは此の頃に候へば御連れもあらばと思ひくらし居りまた何がし様御
 下やしきの紅梅の美はしきも兼ねて一度はよきつてもとめてと存せし
 折から願ふてもなき御供仰せ付下され別して御懐しくかならず御
 召連れ下され候やう願ひ上參らせ候なほ明日は朝まだきよりまかり出
 申べく候何も御目もじに御禮申上まゐらすべく御返事のみを じ

花見に誘ふ文

嵐山の花こゝ四五日のところ見頃のよし京都のしるべより便りおはし
 候へばこの日曜にはと思ひ候へど日曜は人の出おびたしくて瀛車の
 昇り降りなとわづらはしく殊にはそれまでにもし雨風などの候はいに
 かに口惜しく候はんと存じ待つも詫しくて明日と取りかめ候御前様にも
 かねては必らずと仰せられ候へど餘りとや俄かの思ひ立ち御人少なに

て御用もしげくおはしまさんにさりとも申上ざらんもあとにて御恨み
 もつらくてともかくも此文をば聞え上りつゝ御出立かなは嬉しさい
 かなるべくこゝ許よりは母妹中の兄も參るつもり候御返事たまはり
 たく じ

なほく御出ましかなひ候は明朝七時迄に手まへともまで御越
 し待入り

同 返 事

嵐山の花見明日とおぼしめし立のよし御文有がたく拜しつゝ私も彼
 處は久しく參らず候ゆゑ御出ましの折にはかならず御召連れ給ひてよ
 ど自まゝの願ひ申上おき候ひしにようぞ御誘ひ下されいかばかりかか
 たじけなく存じつゝ殊に御かたくとならは心おきなう面白さもい
 かならんと御嬉しく父母つげ候てゆるしを請ひ候ところ私居たりとて
 何はどのたしにもならず殊にはよき御連れのある折願ひて御供申やう
 どの事に候へば仰の時こゝ迄に御かどまでまかり出申べく今宵すぐる

を楽しみわたり候何も御返事まで じと

花見案内の文

打つゝく暖かさは春のけしきいたらぬ隈もなく心も浮々といたし申し候さてとやこゝ許庭の花今を盛りにおはしまし候を今夜のうちにも雨風のまゐり候はうつろひもいかならんと存じ候まゝ夕方より花の下にて手製の料理参らせたく候御手すきに入らせられ候は御遊びがてら御はしまし願ひまゐらせ候御老母様にも御同道下され候は一しは申うれしくかならず御待申上候 めでたくじと

同 返 事

御玉章拜しつゝ仰の如く打つゝくお天氣に心もはれくといたし御嬉しき事におはしまし候さやう候へば御庭の花眞盛りにおはし候よしにて夕方より御花見の御もよほし遊ばし候はんとて私どもにも参し候やう仰せ下されかたじけなく御禮申上つゝ老母にも申さけ候ところいともく嬉しがりたそがれを待ち詫び早や髪など撫でつけ居候御笑

ひ下さるべく候御言葉に甘へ同道にて参し申べく候此のからすみ昨日長崎のしるべより送り越し候御主人様お好みのよし承り居候まゝ風味いかいと存じ候へど御福分いたし参らせ候まづは御請まで

沙干狩に誘ふ文

めでたくじと

打つゝいさいとよき日和におはしまし候さやう候へばこの頃は堺住よしなどの海邊沙干狩の人々集ひていとにぎはしきやうの噂承はりて心うごき居候ひしに明日は大しほのよしなれば定めて一しほの興も候はんと思ひたち申候幸ひ日曜に候へば子供みなく伴ひ申候同じくは御許様にも御入らせ願ひ一日もく遊び興じ申度御都合うかいひ上まゐらせ候御さしつかえもいらせられず候は明朝七時ごろまでにみな様御同道手前かたまで御車よせ給はるべくすべての用意はごゝのへおかせ候まゝ何も御心づかひ遊ばされぬやうそへて申上おき候御思召御うかいひまで めでたくじと

同 返 事

承り候沙干狩の御もよふしおはしまし候よしにて御誘下され御文よみ聞かせ候ひしに誰れもく大よろこびにて何事をさしおきても是非に御供いたしたくと申さはぎ候まことに御遠慮なしにて厚かましく候へども御言葉に甘へ皆々召しつれまかり出べく候よしにて御取はからひ願ひ上りよろづは明日御目もじにてと何も御返事まで じ

なほく浅草海苔壺東京の弟より送り越し候ま御目につけ候
藤の花を人におくる文

花もいつしか青葉となりはて物淋しくそらるに春の行衛をおもはれ候折しも後園の松が枝にかゝりて我れありと言はまほしげに咲き出で候さまのをかしく候ま一枝手折りて御目につけ候御慰みともなり候はゞいかばかり御うれしき事に存しるなほ何がし様の別荘には紫色たえに花房も美事なるが候よし幸ひつで候へば其の内御ともいたし度御都合御もらし下され候やう願上り じ

同 返 事

仰の如く花ぞめ衣ぬぎかへ候てより長さ日のいと暮しがたき心地し候折からゆかしき一枝の御恵み何よりも御嬉しく存じる幸ひ唯今宗匠の参られ候もゑすぐに掛けに入れ候はんと存じ候此かしは餅はさきはと乳母のもとよりして送りくれ候御子方様へさし上りなほ何がし様御別荘のもかりの花御見せ下されとて御誘ひ下され御深切のほどかたじけなく私はいつにてもさしつかへなく候ま御出ましがけ御一聲願ひ上りよろづは御目もじに御禮申上ぐべくと御返事のみ

端午いはひの文

今日の御祝ひには何をがなと思ひめぐらし候へども御存じの田舎ものはかしくしき事も思ひよられず定めて御にぎしく御飾りなご遊ばされ候御事なるは其の中へはいかしくと存じ候へども心ばかりの御祝ひのしるしにと御内のばり一對ならびに人形御目につけ候御かくれ

の方にもさしかせ給はらばや和子様日ましに御智えづき遊ばし御産
の棟にひるがへるそれよりも勇ましよう生ひ立ち給はんさま思ひやられ
まゐらするにみなく様の御歡びと御樂しみのほと推しはかりまゐら
するも中々におはしまし候萬づは御目もじのうへと唯幾千代かけて悦
び納めまゐらせそめめでたくと

同 返 事

わざとくの御使ひにて御祝ひの御玉章殊にはお美事の御幟ならびに人
形御めぐみに預りかたじけなく御子達あまたにしかも足らぬ事なく御
榮えおはします御許様よりの御賜ものは我子が千歳たのもしく取わけ
御うれしく存じられ候此の重の内不出来に候へども御覽にそなへ候引
そへし菖蒲の根のながく御愛しみを蒙りたくねがひ上まゐらせ候

めでたくかしく

なほく心ばかりの料理さし上たく候まゝ夕方より皆々様御入ら
せ下され候やうくれくもねがひ上まゐらせそる萬は御目もじに

御禮申上まゐらせ候

花菖蒲見に誘ふ文

木々は青葉になりはて、漸々夏氣をもよふし候さてとやかねて一度は
もろごもにと御契り申候浦江の花菖蒲今が盛りとの沙汰に候まゝ同じ
うは日和の中に詠めたくと同じ心のたれかれ三四人あつまりて明日の
朝此處より車もよふしたて見に行かんとに候御前様にはいかにかねて
の御言葉の如く御同意たまはらばいかにもうれしく候はん思召のほと
承はりまゐらせたくみなく御返りごと待ち入り候まゝ此ものになま
はるべくねがひたり

同 返 事

拜しつゝ仰せの如く雲か雪かとながめ候花もいつしか消えはて、照
る日の影さへ夏めき申候いつぞや御願ひおき候花菖蒲の事御心につけ
させられわざと御人して御誘ひ下されいともく御嬉しく有がたく
御禮申上らるゝ花より後の詠めにはこれに増すものあるまじくいかで

御供にもれ候べき明朝はまださより貴方様まで参上いたし申すべく誰方様へもよしなに御傳へたまはるべく候何も御目もじにてと御かへしのみ
しよ

新茶をおくる文

天下茶屋別荘の茶園このころ人もやとひ入れ皆々もまゐりて手製にしらへ試み候昨日はじめて少しばかり出来上り候まことは御一煎はとに候へと御風味下さらば有がたく存上り近き邊りの麥島の黄ばみ渡れる空に雲雀のさえづるなども其の事となく一景色候ま茶つみ唄のをかしきをも聞しめしがてら一日御嬢様方御同道にて一日御遊びに御出下されたく私も此はと絶えず行きかよひ居候
しよ

同 返事

御文拜し参らせ候ところ御別荘にて御こしらへ遊ばされし御茶御珍らかなるを先づ賜はり御なさけのはとかたじけなくともかたじけなくいとぞぎこんろ取り出して炭いたし申候御慰みがてら皆々様にも御手づた

ひ遊ばし候御事いばかり御樂しみ深ういらせられ候はんと御うらやましく存じたり其の茶つみの唄雲雀のさるづりなといとくゆかしう存じられ候ま其の内かならず御あと追ひ申べく候此の八ッ橋折から京都の人参り貰ひ合せしを御紙がはりに御座候よろづは御目もじに御禮申上候
しよ

梅雨見舞の文

此の程は月日の影も見えず心さへ曇りがちな霖雨はとく困じはて候御子様方日々學校への御出入りにも嘸御むつかしくと御さつし上げたりいづれも様には御かわらせもなく御暮し遊ばし候哉久々御伺ひにも得まゐらすまことに申譯もなく存じたり此の枇杷は例の庭に出來たるものに候へば御子様方の御慰みにとさし上候何もく御やうす御たづね参らせ候のみ其の内まかり出で御不沙汰の御詫申上り
しよ

同 返事

御文かたじけなく拜し仰の如く年々のならひとは申ながら此の頃の空はいつ晴るゝやらと唯々待遠にのみ存じ候を誰方様にもまづ御機嫌よく御くらし遊ばしめでたく存じ上り候へども皆々無事御安心下さるべく候此方こそいつこても御不沙汰のみいたし候を却つて御文ならびに何よりの御賜はりものいたさき今更申上やうもなくたゞ御ゆるしを願ふの外おはさず候

暑中見舞の文

昨今の御暑さは近來になきさびしさにおはしましたし候を貴方様にはいかゞ御凌ぎ遊ばされ候哉御廣々との御住居に入らせられ候へば左のみは思しめしまじきか御様子御うかい上り候へども皆々すこやかに暮し居候まゝ御安心下され候やう願ひ上り候へども葛素麵壹折暑中御見舞のしるし迄に御覽に入れ候折からの御暑さくれぐれも御いとひのやう願はしく存上り候へども猶申上たき事は澤山おはし候へども近々に参じ候と筆とめたり候へどもめでたく候

同 返 事

御玉章かたじけなく拜し仰の如く御暑さ格別におはしましたし候をいづれも様には御勇ましく御くらし遊ばしめでたく存じ上り候へども暑さのお見舞として何より好物の品給はり有がたく御禮申上候幸ひに私方みなく何のさはりもなく唯あつし候の申つけ位に候まゝ憚りながら御安も下されたく存じ候へどもか前裁まはりは廣きやうに候へば風入りはよろしく候へども其のかはり日の當りは随分さびしく日中はなかく堪へがたく候此の林檎少しばかりに候へども後ろの庭に生ひ立ち候もの御うつりまでに御使ひにさし上り候へどもいづこにまれ御避暑のおぼしめしたちなどおはしましたし候はゞ御供仰せつけられたく御禮ながら右ねがひおき候 めでたく候

夕立の後友に遣はす文

やうくよみ返りたる心地にて猶うちふるへつゝ文して御たづねまゐらせ候先はと空くらう成り初めし折は夕立の今やかゝりて涼しう成り

ぬべしとて窓によりつゝ、打ながめ居り候ひしに冷たき風に庭の木の葉さはぎて大粒の雨の音にいそぎて雨戸くりだす間もなく天の川をさかさまにせしかのやうなる降り出しさまいと心地よく思ひしは東の間にて雨戸のひまよりひらめき入る電光に轟き出でしかみなりのすさまじさ常には氣づよきを自慢の弟さへ桑原となへ出申候まして私は恐ろしうて心地死ぬべく思ひ候ひし今餘波なく晴れあがりて日のけざやかに木々の梢を照らしつ鳴き出づる蛸の聲なぞ唯々夢のさめたるやうに候へど猶前の小川を流るゝ水の音はげしう聞えてまだ涼しさを嬉しとも思はれ申さず候御前様はいつもく恐ろしき物のうちの第一に數へおはしまし候へば無かし御驚き遊ばされいかに御しのぎなされしやと思ひやり参らするまゝに胸さわがれ申候御有さまの案じられ候まゝ御見舞申上たく取敢へず人はしらせ申候 じ

同 返 事

ようこそ御心にかけてさせられ御尋ね下され有がたく存じ上り候今さ

らながら例の心よはさ彼のはげしかりし折には魂も身に添はぬやうにて有さまいかなりしか身には覺えなく候へど御存じの小座敷に蚊帳つり置きしへかけこもり夫れよりはすべて物も覺えず候ひし今召使ども申候には顔の色なぞうせはて、此の世のものとも思はれぬやうなりしよしされども例の癖に候へば晴るゝとやがて心地も元にかへり此の涼風はたどへがたく嬉しくおぼえ候御禮がてら参らばやと存じ候へども彼のために髪もおそろしくしうなり居り候を母の申し候に心づき鏡にうつし候へば我ながら淺ましうて得参らずかゝるさまに候まゝ必らず御案じ下されまじく萬は明日まゐり御禮申上べく候と御返事のみをかしく

納涼の庭より友を招く文

月は今さしのぼらんとし候を此むしるに猶一つ光り添はざらんはいと口惜しく晝こそ暑さにまけさせ給ひ御出まし惱ましう思し召さんもことほりなれど此の涼風にのらせられおはしさまんに何事かはあるべき

とはしり書して参らせ候夕方より例の人々どもにそゝるあるきのつ
 ひで此の宿に立ちより湯あみなせしに得も言ひしらぬ快さに候へば
 君にも此の庭の松風ふきかよひ物ゆかしき夜のさま見せ奉らざらんも
 いと口をしくまたかゝる折ふしいとよき歌など取いでらるべきを此の
 むしろの人々はみな口重にてまどぬの三文字も歌はれず候まゝとくお
 はしまして例の優なる御口つき承りたく此處のあるじはかねて御存
 じの心安き人なれば物むづかしうはおぼしめさるまじく候とにかくに
 おはしましをまち入らうし

同 返事

其處におはさんには我が門をばすぎ給ひしならんに音なしに御車はし
 らせ給ひ納涼のむしろ開かせ給へりとやさりどもの御なさけにゆかし
 き夜のさま見せんとしてむかへの人給はりしぞ御恨めしさも忘れてかた
 とけなく御使ひとどもに立ち出たきを今しもあるじに用ある人の参ら
 れ居り候まゝこれを少し見あつかひて猶おそからずはうかひ候はん

貫ひ合せし桃一かご御まどぬの中へと御使ひわづらはし候参られ得べ
 くは其の折よろず聞えあぐくかたぐへの御傳へよろしきやうにと
 差いとぎ御かへりのみを

人の新盆に物をおくる文

またぬ月日のたつに早くて御令嬢様の御新盆に近より何かの御營みに
 御心のはを御さつし申上まゐらせ候こそ此の頃は私うら庭の蓮池
 に其の花折にとおはしませし有さまなと唯今のやうに思はるゝを今年
 は門火に迎へられ給ひ御魂祭りの棚の上にみそ萩のつゆも手向けられ給
 ふらん御事おもへば猶夢のやうにおはしまし候無かし御思ひ出でぐさ
 さまににて慰めがたういらせられ候はん折いと御思ひや増るとた
 ゆたひながら有之餘波の蓮の花一もと持たせ差出し候を御そなへ下さ
 らばかたじけなく根芋三株田舎のしるべより貫らひ候を同じう御覽に
 入れ候と

同 返事

娘の新盆の御手向にとて数々の御備へ物有がたく美事なる御花有しな
がらに拜見いたさせ候ならばいかばかり嬉しがり候はんは今は何事も
得言はで真菰の上に押し据へられ香の烟にかすめるやうなる寫眞の面
かげいとをしき事言ふ計りなく斯ばかりはかなき一生と知らば六づか
しき小言など言はでも事のすみたるにと返らぬ事を考へられ候暮れゆ
く空をながめ候て天くだり來んものゝやうに戀しのび居候折からよう
ぞ思し召しやらせ給ひての御文ならびに御賜はるものかたじけなさに
涕こばれて御禮申上げしつゝいづれは御まのあたりにと御かへしのみ
を

残暑見舞の文

秋立ち候へどもいまだ残る御暑さのはげしく候ところ皆々様御かはり
なう御機嫌よくいらせられ候やもはや學校も御はじまりの事御子様方
御通ひの御道すがらさぞと思ひやりまゐらせ候夏の頃より引つゞきつ
る例のあしき病のこのほどもなかくに勢ひはげしき由御許様などは

御手廣の御住居にて空氣の通ひもよろしくいつも御奇麗に御掃除せき
といき候うへ御養生家にもいらせられ候御事ゆるさる御案じはいらせ
らるまじけれと御外出のかたじけなく様御用心のやう願はしく候暑しく
と申も今しばしが程に候まゝ何とぞ御いとひ此はと御過し遊ばし候や
う祈り上まゐらせ候葡萄酒二瓶御見舞の印までに御目にかけて參らせ候
御子様方御同道ちとく御遊びに入らせ給はるべく待入らめめでた
くと

同 返 事

御心づくしの御文ならびに結構なる御賜物有がたくいたしきと仰
せのとはり秋とは名のみにて御暑はいとく凌ぎがたく候をよなな様
にも御障りなう渡らせられ候よし御めでたく存じ上らるゝにも一
同すこやかにくらし居候まゝ憚ながら御安もじ下されたく候此のはと
より御不沙汰御詫がてら一度参じ度と存じ候へども御存じのあつさま
けのからだにてつひくなほざりの罪はいく重にも御ゆるし給はるべ

くいづれ近々のうち参じてゆるく御詫申上り梨子壹籠屋後のに候を御移りと申にてはなく候へども御使またせて参らせ候何も御返事のみをめでたくし

祭りに招く文

先もじは大勢参りてさまの御もてなしにあづかりかたじけなく御禮申上りさてとや明日は例の鎮守の祭にて今年は町内申合せさまの作り物なともいたし御輿の御渡りなとも例よりは賑々しくおはしまし候よし何もさし上候ものはなく候へども御早々より皆々様御こし給はるべく待ち入りなほく御子様方には唯今より御出まし願はしく最はや作り物などは出来上り居り人々さわさまわり御なじみの御友達たくさんに候へば御都合よろしくば此の使ひのものと御同道に御こし待ち上り先は御案内まで申上りかしく

同 返事

御文拜し先もじ御立寄せ給はりしも何の御もてなしとてもな

ぐ失禮のみいたし候さやう候へば明日は御祭の由にて一同参るべくやうとの御さた給はり皆々大よろこびに御座候御文よみ聞せ候より子供等は是非にくとせがみ居候へば御言葉のまゝに唯今よりさし出し申候例の我がまゝものゝみ無かし御世話におはしまし候はんいたづらいたし候は御遠慮なく御しかり下さるやう願はしく存じ候よろづは明日私共参じ候て御禮申上げし

野分見舞の文

昨夜の大あらしや今朝は吹き止み御同様に安心いたし候御宅様には御障りもおはしませ候や手前がた離れ家の屋根は大方に吹きめくられ前裁の木々も大方は枝葉の損じてかたなき様になり候御方角はいかがや私方は平家にて地處も低く候にこれほどの障り貴方様には御高臺の御二階造りいかに當て候ひけん心もとなく候ま御伺ひ申上まゐらせ候あ取り方つけのわびしうて心も心ならず走り書きして

かしく

同 返事

こなたよりこそと存じ候ところにて早々御人にて御たづねいたゞき御心
 もしのはゞいかにも有がたく御禮申上り仰のさほり昨夜は生
 きたる心地も候はず庭の木折る音堀垣のたはるゝにひゞき合ひて屋
 根も柱も抜きもてかかるゝ事と覺悟きはめ申居候に追々出入のものな
 らせ集りくれば家には支へをし屋根おきなゞいたしく候まゝそれに少し
 心つよく成り候て曉がたよりは物おぼゆるやう相成り申候今朝見候へ
 ばまわりの堀垣などは形なくたはれ離れ家は骨ばかりに成り候へども
 表家は人々の助けにて壁の少し落ちたるを屋根の角々めくられ候位に
 て相すみ候御許様にも餘程の御いたみ處の候よしさぞ御方付に御
 困り遊ばし候事とこゝにくらべて御さつし申上り候とありあへず御返
 りごとのみ何も御目もとのせつゆるゝ御禮申上り候

月見に人を招く文

い

同 返事

いつしか秋も最中となり候て今宵は舊曆の望の夜に當り候殊に去し
 年の夕は無月にて候ひしに今日はまた例になく晴れ渡りたる空なるを
 此のまゝに過さんも口惜しく候まゝさゝやかなる二階の塵を拂らひて
 詠め明さんと思ひ候まゝ御さしつかへもおはしまさず候はゞ暮頃より
 御良人様御同道にて御入らせ給はりたく何も差上候ものはなく候へど
 も麓末なる田舎料理參らせたく候必らずと待ち入り候めであらう

い

茸狩に誘ふ文

い

拜し候今宵は三五の月に折ふしかゝる雲もなく何處へかそゞろ歩
 きをと思ひ居り候ひしに月見の御まゝの御開き遊ばし候由にて御招
 き下され有がたく仰せにまかせ兩人とも後はまから出で御禮申上へ
 く海に向へる御家居なれば別て秋の色も深からんといとゞ楽しみ
 存じ居り候何も御請けまでめでたく

朝夕は肌寒く木々の梢もや、色づき申候さてとや此のほどの雨に松茸
 の出そろひ候まゝ一兩日留山に致しおき候よし親類より只今しらせお
 こし候まゝ明日まゐるべくやう告げやり申候皆々様御さしつかへもお
 はしまさず候は、御同道申たく一しは楽しみ深かるべくと存じり、御
 同意なし給はらば明朝手前方まで御車寄せたまはるべく御待うけいた
 し、御返りこそ此のものに給はるべくと

同 返 事

此の春蕨狩の時は御誘ひ下され其折の楽しみ今に忘れがたく折々申出
 候を今日は又茸がり思召たちのよしにて御誘にあづかりいとくかた
 じけなく厚く御禮申上り、せひ、御供願はしく落葉がくれにおも
 ひの外見出たる時のうれしさかたみにとりきそひ負けまじと思ふいさ
 ましさなど去年稻荷山へ参り候ふる事ども思ひ出でられて今宵すぐる
 を楽しみに致し居り候御言葉に甘へ弟引きつれ明朝御門口まで参すべ
 くいづれは御まのあたりに禮申上まいらせ候

紅葉見に誘ふ文

此の頃の野山の景色中々に春の花にも劣るまじくと存じ候へば明日は
 高雄の紅葉見にまゐりたくと思ひ立ち候御前様思召はいかにおはし
 まし候や御誘ひ申上候御差つかへいらせられずば御同意給はりたく候
 晝の支度などはすべて手前にて用意いたしおき候まゝ、其の思し召しに
 て明朝八時迄に御こし願ひ上まゐらせ候御返事此の使へ給はるべく待
 ち入まゐらせ候

同 返 事

秋の空晴れ渡りいづれへかまゐりたくと存じ居り候折ふし明日は高雄
 の紅葉狩御もよふし遊ばし御誘ひ下され有がたくいかで御供に洩れ候
 はん御示しの時刻までに御うかひ申すべく候まゝ、萬事はよろしく願
 ひ上まゐらせ候今日しも神戸の親類の娘まゐり候に此の事はなしいた
 し候ところ御供に加へ給はるまじくやなとねたまし氣に申候ゆるまこ
 ぞに厚かましく候へども召し連れ参り候ゆる御ゆるし給はりたく御心

安だてに御無理願ひ上り何事も御目もじに申上べくと御かへし
そぎて じ

歳暮に物を送る文

今年の日數もはやわづかに相成り候に何くれと御用多に入らせ候はんと御さつし上りいづも何くれ彼くれ御願みのもとに候てよろづ御蔭を蒙り候かたじけなさ又來年も願ひ入り此の鹽鮭ありふれたる品に候へども御歳暮御祝の印ばかりに御目に懸け私上りて申上べきを召使しての略儀御ゆるし給はるべく盡されぬ御禮は立ち返りたる年の始めにもづり候て筆とめ候 めでたく

同 返 事

仰の通りいよく押迫り御もと様にもさまの御事しげき御中にてわざと御歳暮の御祝儀御おくり給はりかたじけなく頂戴いたし候てなたよりこそとくに上るべきと存じながらにさかく事しげきにまされて申譯もなき事何とぞ御ゆるし下され候やう願ひ上りいづれ夕方

まかり出でよろづの御禮申上べく候先は御かへりごとのみをめでたく

出産祝ひの文

承り候へば御もと様には昨夜お平らかに御産のひもどかせ給ひ殊には御男子にさへいらせられ候よし御めでたく祝ひ上り御兩親様はじめ皆々様の御歡び無かしと推し上げ御二方様とも御すこやかにおはしまし何よりの御事と幾久しく御祝ひ納め候此品あらしくしうて御耻しくは候へども御祝ひの印ばかりに御目に懸け候やがて參上よろづ御ことほき御申上候べく唯これのみを めでたく

同 返 事

御懇の玉章かたじけなく拜しかねては案じくらし申候ことも思ひの外に安らかに相濟し候て重荷をおろしたる心地とは此の事に候はん幸ひに血の氣もなく子供も極めて丈夫らしく候ま御安もじ下さるべく候御丁寧の品々御祝ひ下され有がたく一同もよろしくと申出候

何れ委しくは御目のあたりにてと御使またせ置き取りとぎて御禮のみ
をめでたくし

婚禮祝ひの文

文して申上りかねて御尊さ承り居候御縁組明日は御日柄もよろし
くいよ御婚禮御むすび遊ばし候との御事松の緑の色深く龜の齡の
萬代までも限りしられぬ御ちぎりと山々御めでたく祝ひ申上まゐらせ
候さては御樽壹荷御肴壹折いさか御祝ひのしるしまでに御めにか
まゐらせ候いづれも様へよろしく御申上下され候やう願ひ上げ
めでたくし

同 返 事

御心に懸けさせられ御ねんもこの御文かたじけなく拜し
や御祝儀として御樽御肴かず御惠み下され御うれしき何にた
んやうもなく幾久しく千代に八千代にもと祝ひ納め御存じのふ
つゝかもの候へば此の末とも御見すてなくいつまでもよろづに

御心添へ下され候やうくれぐも願ひ上り一同よりも御禮私より
よろしく申上候やう申出候何も御禮のみを めでたくし

開業祝ひの文

先ほど出入りの者参り御宅様には今日御店開きと相見え御賑々しく御
飾り立遊ばし御店先には人の山をつくりてと申し聞せ申候かねて近々
に御開業とは承り居候ひしも今日とは存じも寄らで御祝ひも申上ずお
くれ申候こと幾重にも御ゆるし給はるべく候御店開き早々さはこの御
景氣にいらせられ候は何よりの御事と御嬉しく喜び入まひらせ候麥酒
壹折いさか御祝ひのしるしまでに持たせ上げ候御受納下されたく願
ひ上りいづれ後は主人参じて御祝ひ申上べく候めでたくし
なほ御手傳の方々も澤山におはしまし候はんと存じ候へども
店の者一人さし出し候まゝ何か御用仰せ付給はり候は有がたく
存じ

同 返 事

御文拜し、唯今は御使ひにて結構なる御祝ひ物其の上御用しげさ
 中を御店の御方御貸し下され今更恐入り存じまゐらせ候今日の店開き
 前方より御耳に入れ置き筈に候へども事々しう御吹聴いたすべき程の
 かまへに候はずまして物なれぬもの、店には来る人なくて淋しげなる
 を見られ参らせんも耻かしければ何事も申上げず二日三日して少しは
 物なれ黒人めかしう成りたれば斯くと告げ参らせて驚かし申すべくそ
 れまではひた隠しに隠し参らせよと主人の申つけ悪しう御思召し給は
 らぬやう願ひ上り、家内みなくふなれにて困り居候折から御店の
 御方御こし下され大たすかりにて主人も喜び居り私よりよろしく御禮
 申上候やう申付、御禮にはやがて伺ひ候はんたゞ今日の事告げ参
 らせざりし申譯ばかりを斯くは取りあへずはしり書にてめでたく

新宅わたまし祝ひの文

先づ頃よりの御普請御出来まして今日の御わたまし幾久しくめでた

く祝ひ上り、年來御手狭の御不自由おほせられしが餘程御手廣に御
 敷奇をつくさせられ候由定めし御うるはしき御事と御樂みのほと御う
 らやましく存じ上り、交せ肴壹籠御耻かしく候へども御祝ひの印まで
 に御目にかけて申候御わらひをさめ給はりたくやがて御うかひ家作り
 こまかに拜見ねがふべくと樂しみわたり申候何も御まのあたり御祝ひ
 申上まゐらせ候 めでたくし

同 返事

御玉章かたじけなく拜し、何ばかりの敷奇もなく唯餘りの手狭に
 少し息つく處をど建そへに取掛り候ところ思ひの外手間とりやう、
 此の程出来いたし候ま、今日引うつり候にはや、御祝ひとして美事
 の御肴頂戴いたし有がたく幾久しく祝ひ納め、いまだ造作等もど
 のは、御耻しくは候へども明日はわざと心祝ひの宴を開きたく候ま
 、夕方より御良人様御同道にて御入らせ給はり候やう願はしく別に人
 して御案内申上まゐらすべく筈御心安きにまかせ略儀ながら御使また

せ置きて斯くは申上げまゐらせ候主人よりも御禮私よりよろしく申上
候やう申付け候 めでたくし

近火見舞の文

今朝はどはさこそ御驚き遊ばし候御事と推し上參らせ候幸ひにも御近
所までにてしづまり御災難御のがれ遊ばされ候御事御運のめでたくお
はしますにてこそと御いわひ申上參らせ候御方角と承り候より直に召
使の男もさし出し候へども其筋の方にとめられ御近くまで參りなが
ら空しく歸りまゐりまことに本意ならず存じまゐらせ候粗酒壹樽御よ
ろこびのしるしまでに御目に懸けまゐらせ候いつれは參りて申上べく
と取り敢へず御よろこびまでめでたくし

類焼見舞の文

昨夜はどのやうに御おどろき遊ばし候御事とさつし上り火元は御
裏町とかにてとさきの間に表までもえ抜け候てさしも數奇を盡し給ひし
御住居よりはじめ御庭の樹木まで大方は烟にならせ給ひし由いかなる

事ぞこゝもとあやにく主人京都まで參り不在にて候へば御方角と承り
召使ひのもの直にさし出し候へども警察のかためさびしく御近くまで
參り居ながら空しく歸りまゐりまこと本意ならず口惜しく候御老人様
もおはしますなれば御心づがひいか計りにか候ひけん先はみなく様
御怪我もなく御立退き遊ばされし由これのみは御嬉しき事に存じ上
り重の内ならびに酒一樽御手傳の方々に御わかち下され候やうに
と取り敢ずもたせ上り此の人も御跡かた付の御手傳にもと其の支
度いたさせし出し候なれば其のまゝにどめ置き御用仰せ付け給はる
べく猶此許にて御間に合ふべき品物などもおはし候は御遠慮なく御
入用仰せ聞け願ひたく候し

水見舞の文

今朝の新聞にて御地方大水のよし拜見いたし驚ろき入りし餘ほど
慘らしう害ね候との事御宅様は地面外よりは高みの御住居に候へばま
さかにとは存じしへども如何おはしまし候やと一同御噂いたしき

つう案し申上り何をがな御見舞にと存じ候へどもこれと申す思ひ
付も出で候はず先づ取り敢へず味増漬一樽干物壹籠だけ今しも瀛車の
便りにてさし出し申候取りいそぎ候まゝの亂れ書御ゆるし給はるべく
御序の折に御もやう御さかせ給はりたく願ひ上り

盗難見舞の文

唯今警察の前にて御子息様御届にと參られしを此方店の者御出會申し
御ありさま承り参り候さて驚き入たる御災難にて御心づかひの波
と推し上りぬす人は宵のうち紛れ入り候やにと御物置きとかに
しのび居り皆々様御寝しづまり遊ばすを待ち居りしとこのこと御紛失物
も數多にて殊に御立派なるを計り持ち去り候とはいかにも憎らし
さしわざ御家の案内しらぬもの、出来まじき事のやうに承り候由なれ
ど何か心當りなとおはし候やたち御見舞にと存じ候へども昨夜よ
り頭のなやみにて休み居り失禮とは存じながら取り敢へず御やうす御
伺ひ申上げり御驚きは申もさらなりいかに御口惜し御腹立たしう

おはしまし候べくと推し上まゐらせ御慰め申すべき言葉もなく候何も
御見舞までに

同 返 事

御懇の御文有がたく拜し昨日は珍らしき客人のおはしまし候て
床に入りしは何時よりも少し計りおくれ候ひしが其の折戸じまりは私
の役なれば例の通り見まはりもし火の用心なと心つけしに候へど物置
の隅までは遂ひ見及ばて彼のやうの事にも成れるにて候斯る災難の
ある時のならひ何時も眼さどくて他のもの、寢返りにも耳引き立つる
私のいとよく寢入しこと今朝かたまで一度も夢さめ候はずされば緩々
と品の撰り分けなと致し行して候べく悴なとは此曲者かならず家内の
と知り居る者のしわざなるべしなと申候へど何かはそれに限り候べき
燈火を手にして品のありどころ探し求めしに候へば良き物のみを持ち
去りしも道理にて候はん今更騒ぎ候は六日のあやめとやらんのやうに
ていどく御耻かしく候我が身のおこたりよりとあきらめ候はかなく

と存じ候御さつし給はるべく御前様の御病氣いかゞ折角御大切に御養生遊ばし候やうねんじ上參らせ候何かと取り紛れ居り候折から御かへしまでよろつば御目のあたりにもるく〜と御禮申上らるゝ

怪我見舞の文

唯今承り候て驚き入申候御取こみいかゞやと推はかりみづからは參りも致さず文して御やうす伺ひにと人さし出し申候御令息御こと御用たしに御車にて何がし町までおはしたるに屋根より物の落ちかゝり候て御足を傷め給へるよし召使のもの聞き參りしには御傷も淺々しくて濟み給へるやうにもあり向ひの店の人などの申すには御膝の邊りを折かせられやうにも承はるまゝ心も心ならず候へばいかにもあれ御様子うかがひ奉らばやとはしり書きして人さし出し申候こゝ許主人の居り候はゞ直にも參らせ申べきを御存じの留主中にて本意ならず候御もるし給はるべく何はあれ御うかがひまで

同 返 事

彼のこと疾く御耳に入りし由にてわざ〜御人して御たづね下されかたじけなく存じ上らるゝ屋根瓦の落ち來り候にて左の膝がしらを折き出血は左のみ候はぬぞいたく腫れ上り唯今例の醫學士參られ手當いたし居られ候て何れは入院の上療治せでは叶はぬ由申され候併し當人はこれしきの事何も心づかひに及ばず腦にも當りたらんには大事なるべきになど申居り氣丈夫に候まゝ御安心下されたく何も御かへしのみを

病氣見舞の文

御祖母様御ようだいかゞおはしまし候や今日も參られ得べくはと存じ候ひしに障ることの候ひて得あがらず候まゝ使にて伺はせらるゝ御病人様はいまだ何もめしあがらずと承はり候へは此れは御伽の衆へと參らせ候御手少なに御看病遊ばさるゝなれば無かし何かと御不自由におはすべくふさはしき御用も候はゞ御心置きなく何なりと申さけ給はるべく候あやにくなる不順の時候にて殊に長の御病氣也此の上と

も御大切には御介抱遊ばし候やう念じ上り何も今日の御様子御た
づねまゐらせたく明日はあがりてしたしくうかひなり

同返事

御心にかけてさせられしはゞの御訪問かたじけなく存じ上り今日
は何か御障りのおはし候とてわざと御人にて何よりの品數々給はり
山々御禮申上し仰のごとく人出入は多きに家内のも少なく候
ゆゑ唯々うろくと致し居候のみにて何一ツ手につき申さず御心入れ
の給はりもの一しは有がたく存じ上り病人の容躰今日は朝がたよ
り何時になくよろしきやうに候て久しぶりにて飯湯を少々計りたべ候
此分ならばまづ此方のものと醫者も申され素人めにも少しはよろ
しき方に見られ斯くては追々こゝろよかるべきかと樂しまれ申候御安
心下されたく何も御返事まで

悔の文

御母上様御事俄かに御容躰かわらせられ此の明がたに御かくれ遊ばし

候おもひき驚き入り唯夢とのみたどられ申候此のはと御うかひまゐ
らせし折は御氣色やよろしきやうに承りさては次第に御快くならせ
られ候べくとお嬉しく存じ候ひしに斯く成らせ給へるは思へば御中な
ほりと申すのにてぞ候ひつらんさりとは存せず今一度御目にかゝらぬ
を打歎かれ候につけても御帯だにとかせ給はで明くれに御みどり遊ば
されし御孝養その甲斐もなき事にて御前様の御歎き申も中々に御傷は
しく存じ上りさりながら末の露もとのしづくは世のならばしにて
すべなきわざと思しわけさせられ御歎きに御身をそこね給はぬやう願
はしく唯それを亡き御方への御孝行におはしまし候御蠟一折御香資一
つみ御靈前へ御供へ下され候やう持たせさし出し申候此の御悔みは
参りて申し上べなれど涙もろき癖に候へばさらぬだにぬらし給ふ
御袖をぬらし添へんもとて失禮なれど文にて申上まゐらせ候
なほ御野邊送りには必らず御供致すべくなれども今宵御通夜に
は母事代りに忝上いした申べく候

佛事に人を招く文

来る何日は亡き母の一週忌に相當り申候まゝ心ばかりの佛事相いと
なみ御心安らなし給はりし方々に粗末の御湯漬さし上げまゐらせたくし
めりがちなる席にて御迷惑とは存じ候へど御入らせ下され候はゞ佛も
いかに悦び申べくと存じ候むし物一重粗茶一袋わざと奉り候御納め下
さるべくなほ當日はうま後三時より御入らせ必らずと待ち入りたり

同 返事

御文拜し、御丁寧なる御志の二品かたじけなく頂戴いたし候御母
君の御かくれ遊ばせしは昨日ふとのみ思ひ居りしにいつしかはや一め
ぐりの御忌日にさへならせ給ふこと夢うつゝとのみ思はれ、明後何
日は其の御營み執り行はせられんとての御志厚き御法のむしろに御招
下され候こと老ては一しは尊とく辱けなくひたすらに泪のこぼれ候筆
もしどろにやうく御請のみを

病氣本復に人を招く文

入院中はしばしば御たづね下され都度々々御見舞の品御惠み給はり御
深切の御禮は拙き筆につくしかね候お蔭をもて命ひろひいたしおひお
ひ快き方におもむき昨日退院いたし候まゝ御安もじ給はるべく候さて
は祝ひと申すもかた計りの赤の飯のみなれど御心づかひ頂きし方々様
に御禮も申上たく何とぞ明日ひる過ぎよりこゝに御事よせ給はらばか
たじけなく必らずと待ち奉り候めでたく

同 返事

此のあひだうかいひ、節にも日に御快きしと承り見上げまゐ
らせし嬉び申居候ひしに昨日いよく御退院との御文にて飛び立つば
かりに御嬉しく祝ひ上り、さてとや明日は御本復の御祝ひの宴開か
せられ候はんとて私まで御招き下されかたじけなく久々にて御一同さ
まの美はしき御笑顔を拜し参らすべく候うれしさ限りなく候明日は御
手傳かた、時を早めて御うかいひ申べくよろづは御目もじにて御よ

ろこび申上べくと御請のみを めでたくし

旅立を送る文

明日はいよいよ御旅立のよし定めし何かと御心せわしく入らせ候はんと存じ上り御見立に参じ申べく筈に候へども幼きものこの二三日少し熱氣の候てよわり居候へばことによりては御不沙汰いたし候やもはかりがたく候まゝ御ゆるし願ひ上置申候此の品粗まつにて御耻かし候へども御はなむけの印までに御覽に入れし何とぞ御道中折角はいとひ遊ばさせられ候やうくれくもねんじ上り めでたく

着を知らする文

其の後は御すこやかに渡らせ候御事とめでたく存じ上り私事御蔭をもて道中無事に昨夜當所に着いたし候まゝ御安もじ下さるべく願上り御地出立の折には一方ならぬ御世話様に相成り別て御用しげき御中にて停車場まで御見立に預り候御深切のはと御禮の申上やうもな

く有がたく存じ上りいまだいづかたへもまゐり申さず候へば此の地のやうすなと申上げ候事もおはしまさず心おちつき候はしそろく見物にもまゐるべくと楽しみ居りいづれ其の内くはしき様子御しらせ申上まゐらすべく候何もとりあへず着の御しらせかたに御禮までみなく様へもよしなに御傳へ給はるべく祈り上参らせ候

品物を借りに遣る文

つねに御無沙汰のみ申居り我まゝの願ひには時にもかはらず御無理申上候こと吾れながら御耻かしく存じ上りさやう候へば主人が勤め先きの同僚の方々かねてより月に一度づゝ代るゝ自宅にて例の俳偕とかの會をもよふされ候よしにて當月は手前どもの客に候て明日夕方よりもよふすに其の積りにてこれゝの用意せよと唯今歸りて申聞け候へども御存しの通り新世帯のまだ何も調ひ候さて器具の數そろひたるは候はねばはたと當惑いたし如何せましと困り入候まゝ外なら

ぬ御もと様には平常家内のさまも打明け御聞願ひ居り候なればお耻かしき事には候へども御笑ひ下さるまじと存じあつかましようも會席膳十人前火鉢壹對召し使の物にして拜借願ひ出で候御ゆるし下され候はいかばかりお嬉しう存じ上まゐらせ候なほく且那樣にも御用おはしまさず候はゞ明日暮れ方より御遊びがてら御入らせ下さらばかたじけなく少しは御慰みにも相成り申べくと存じ何も御願ひまでし

同 返 事

御文拜しり明日は旦那様御友だち御集ひにて俳偕の御もよふしにつき會席膳ならびに火鉢御入用の仰せいと易き御ことに候御互ひに無きは無き有るは有ると打ち明け候が頼もしくさあらば此方よりも願ひどなぞ申がたく候よきのはおはさず候へを仰せの品々御使に持せ上げ候てゝもとはまだ外にも候へばさし當り入用のにてはなき品強ちゐそぎで御返しには及ばずゆるく御つかひ遊ばれたく存じ候御もふしのこと主人に申聞かせ候ひしに大よろこびにてせひ御まごゐのすそ

に加へ給はるやう私より願ひ上まゐらせよと申つけ樂しみにいたし居候へば明夕は必らず御邪魔に參じ申べく方々様へは旦那様よりよしなに御取なし給はるやう御頼み申上り右とりあへず御返事まであら

歸省の日取を故郷の親につぐる文

今どしの暑けさは例になき事にて恐しき病しきりに流行候へば私身の上さまとて御心配下されたびくの御文かたじけなく存じ上り仰せつかはされし養生のことよく相守り食べ物寢びへ其のはか心つけ居候ゆるか幸ひ何事もなく身もすこやかにくらし居候まゝ御安も遊ばされたくかねく御待ち申こし給はり候暑中休暇もいよく明後日より候へば其のあくる日はたゞちに出立いたし候て御膝もとに參りたくと今より心がまへいたし居候へばこゝ五六日の後には御目も出

來候はんと其の日を樂しみに一夜を百夜と待ちこがれまゐらせ候なほく御用しげくおはしまし候に御迎の人なぞ御出し給はらぬやう添て

申上げまゐらせ置候萬づは御目のめたりにとたゞ御しらせまてめら
くし

今體文章活法畢

明治三十五年四月五日印刷
明治三十五年四月十日發行

定價金六拾錢

著 者 丹 羽 三 郎

東京市日本橋區箱屋町十三番地

發行者 矢 嶋 嘉 平 次

東京市日本橋區箱屋町十三番地

印刷者 稻 葉 四 郎



今體文章活法

發 兌 元

東京市日本橋區箱屋町十三番地

誠 進 堂 書 店

大阪市南區鹽町四丁目二百十一番邸

誠 進 堂 書 店

(電話東貳七六番)

服部健二先生著

六ヶ月
間完成 文章講習書

總クローズ金字入
製本 頗美裝
正價金七拾錢
遞送料拾貳錢

世上文に志すの青年極めて多く、こが参考として刊行されつゝある書冊、また數うるに遑あらずと雖、毫も見るに足るべきものなきは何故乎。

著者服部健二氏は夙に能文の聞え高き之士、いま其健筆を縦横に振つてこの一書を公にす。

全冊五百餘頁、項を分つこと十有五、作文に關する方則は毫末も説いて漏すなく、加うるに流暢多趣なる行文は講習者をして倦ましめず、極めて容易に文章學の卒業を了らしむ。

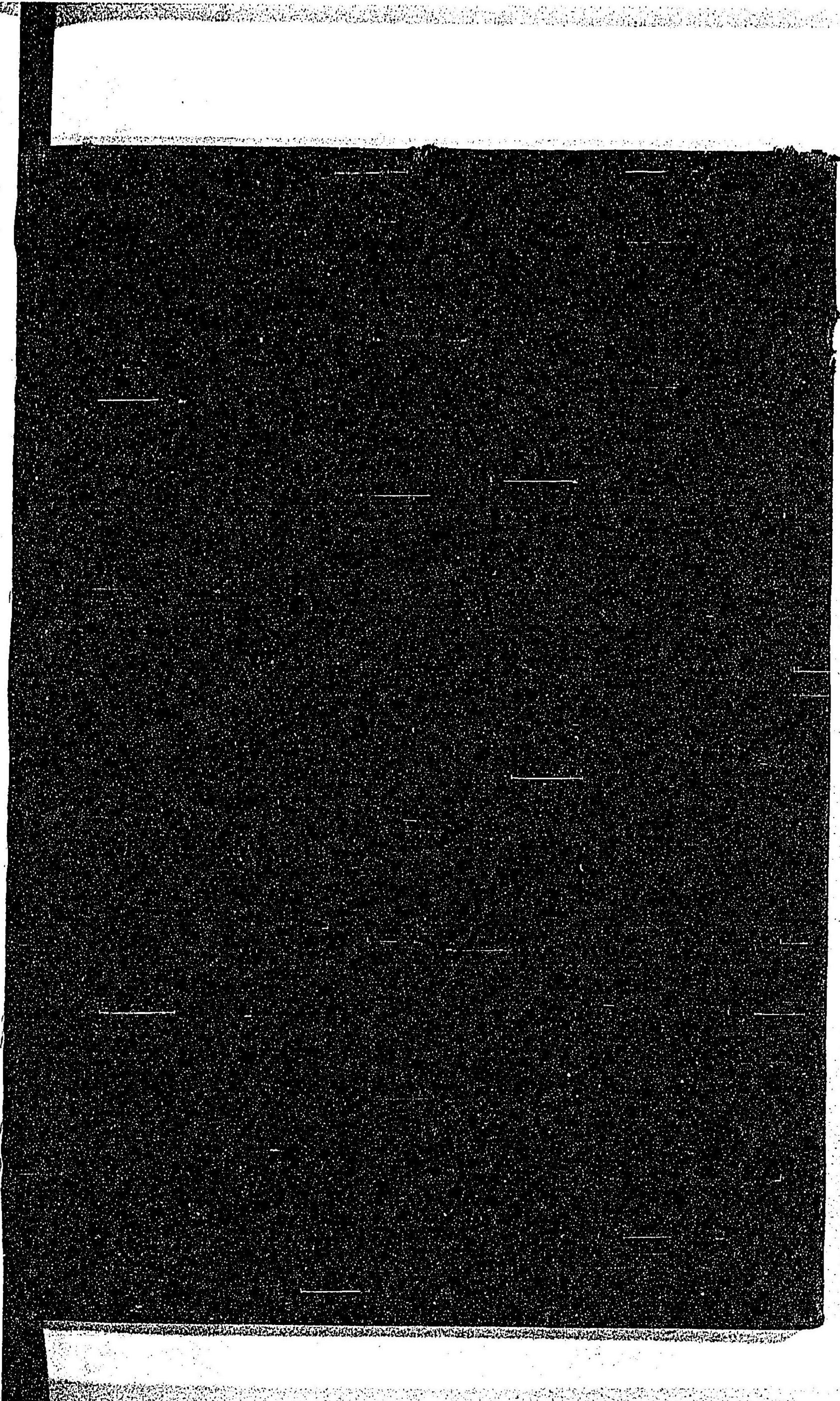
筆を「作文活法」に起して、「韻文創作法」「美辭學」「和文評釋」「漢文評釋」「英文評釋」「文學總論」「美學」班「世界文藝傳」「格言集」「佳句類纂」「冠詞集」「假名遣用例」「疊字解」「虛字義解」に至るまで、該博なる學理と滿腔の熱誠を以て講述したるものなれば、こを繕く講習生諸君は、僅々六ヶ月間の短日月を以て、容易にこが奧秘に達し、涌くが如き文想はよくこれを縦横自在に發揮せしむるを得む。

發行元

東京市日本橋區箱屋町十三番地
大阪市南區櫻町四丁目二百十一番邸

誠進堂書店

223
VI



078928-000-5

特62-237

今体文章活法

丹羽 三郎 / 著

M35.4

DAC-2780



